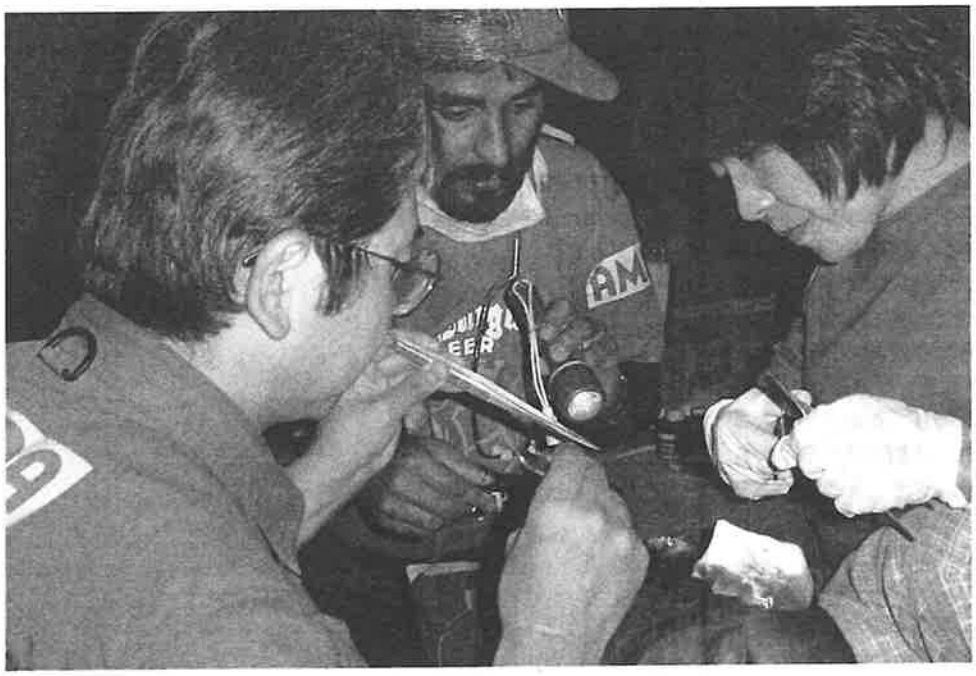
AMDA Journal ダイジェスト　号外

発　行：2001年4月　　定価：100円
発行元：〒701-1202 岡山市楢津310-1
AMDA（アムダ）
TEL086-284-7730 FAX086-284-8959
E-mail：member@amda.or.jp
編　集：AMDA会員情報局
ホームページ：http://www.amda.or.jp

エルサルバドル・インド西部大地震

緊急救援活動報告

岡山空港より救援物資搬送



インド・アンジャール市にて診療活動するAMDA多国籍医師団

NGO・AMDAの緊急救援活動

中米エルサルバドル共和国で新世紀早々大地震が起こり、AMDAは1月15日、カナダ・ボリビア・ペルー三支部と前田ホンジュラス事務所駐在代表そして日本から派遣の比屋根医師、俣崎看護婦、加川調整員によるAMDA多国籍医師団を編成、ウスルタン県にて巡回診療を実施、約二千人を診療した。

[派遣期間：1月15日～1月25日]

エルサルバドル大地震緊急救援終了後、間髪をいれず26日、インド共和国で起こった大地震への緊急救援を開始。インド・ネパール支部と日本からの派遣者によるAMDA多国籍医師団により医療救援活動と救援物資配布を実施した。（P2関連記事）

さらに2月13日、エルサルバドルにて2回目の地震が起こり、再び緊急救援活動を開始、生活用品の配布と今後の復興対策のための現地聞き取り調査を実施した。

[派遣期間：2月16日～3月1日]

AMDAの緊急救援活動は被災地近くのAMDA支部と協力体制をとり、いち早く現地の情報を得、援助の手の届いていない地域において救援活動を実施するところに大きな特徴があります。NGOならではのこうした活動ができるのも岡山を始めとする全国支援者の方々のお蔭に外なりません。御礼申し上げると共に今後も変わらずご支援いただけますようお願い申し上げます。

エルサルバドル大地震緊急救援活動

「がれきの下から」

コミュニティーサービス局 伴場 賢一

AMDA配給車には人々の行列が絶えない

1月13日（M7.6）と2月13日（M6.6）、この2回の地震で死者行方不明者併せて約11,000人、家屋も35,000戸倒壊し、かなり深刻な被害となっています。

今回2回目の地震災害に対する救援活動と今後の復興対策のため、2月16日AMDA本部から急遽私が現地に派遣されました。また隣国ホンジュラスから前田あゆみ駐在代表が再び派遣され、合流して救援活動に携わっています。

今回の緊急救援を含め、今後災害復興対策を行うための調査で、いくつかの街や村落を見て廻ったのですが、無残に崩れ落ちた土砂・家・学校、少しずつ手作業で解体や崩れたレンガを取り除く作業が行われているものの、未だにがれきの下敷きになっている人がいるという話に思わず顔を背けたくなってしまいます。

米・豆・砂糖・水などをピックアップトラックに積み、被災地に赴き、物資を手渡してきました。救援物資を手渡す時に、子ども達の笑顔や、グラシャス（ありがとう）と言うたった一言に、心が和みます。

そう言えば、言葉と言うものは本当に不思議です。私自身、わずかなスペイン語しか分からないまま作業をしているのですが、ほんの少しのやり取りの中で、「わざわざ日本からありがとう」「これで何日かは食べる事が出来るよ」「米は要らないから、豆をもう少しちょうだい」などと言われているのが分かるのです。

状況としては、震源が首都サンサルバドルに移りながら、未だにマグニチュード5.0～6.0程度の余震が続いています。今後、まだ余震が続くであろうと言う予想が出ており予断を許さない状況です。

医療面では、現地政府内務省の管轄であるCOEN (el Comité de Emergencia Nacional国家非常事態委員会)や軍部、NGO団体などが建てている仮設診療所が多く見られます。すでに外科的な症例は少なく、ストレスから来る下痢、至る所で土木作業を行っている為砂塵・粉塵がひどく気管支系の障害などが多く見られました。また、心理面では大きな2回の地震がトラウマとなり、不眠症や食欲不振、ほんの少しの地震でも過剰反応を起こすなどの影響が見られます。

季節的に5月頃から雨季に入るため、骨組みにビニールをかぶせるだけの一時避難所や、崩れかけた住宅でそのまま生活している住民に対してなどの住宅の援助が早急に必要になりそうです。

今後AMDAでもこの国の復興のために、何らかのかたちで力を尽くしたいと検討しています。ご理解とご協力を得られれば幸いです。

インド西部大地震緊急救援活動

AMDAによる緊急医療救援活動報告

緊急救援対策担当局長　小西 司

アンジャール医療キャンプ内のAMDA仮設診療所

概況

インド共和国グジャラート州において、現地時間1月26日8時50分(日本時間同日午ごろ)M7.9規模の地震が発生。翌日のグジャラート州政府による被害状況の発表によると、震源地のKutch地方では死者数17,030人、アーメダバード市では750人。インドでは過去40年間で最悪の被害といわれ、死者は18,602人、負傷者165,529人以上、倒壊家屋数およそ33万戸に達するといわれている（国連人道問題調整部UNOCHA 2月9日付発表)。

AMDAの活動―①緊急救援医療

AMDAは、AMDA・インド支部およびネパール支部との合同でAMMM(AMDA多国籍医師団＝AMDA Multi-national Medical Mission)チームの派遣を決定した。

AMMM第1次チーム(10名)　［派遣期間：1月28日～2月5日］

本部派遣の三宅は28日出発。鈴木・若山とNiraulaは同日朝カトマンドゥ出発。29日にはインド支部からの6名がムンバイ市で合流し、全チームで被災地ブジ市に入った。早速ブジ市の診療所にて一部の診察を開始した。30日、ブジ市の行政機関で提案を受け、およそ45㎞離れたアンジャール市に移動。ここの病院用テント(およそ2,500m²)の一角を割り当てられて仮設診療所を開設した。ここには500人以上の患者とその家族が保護されており、また5,6団体の医療チームが入っていた。

ここでの診療活動は2月2日で切り上げられた。その理由としては、国内各地の医療団体が派遣したチームが多数集まっており、早

段ボール数箱にも及ぶ医薬品を整理するインド支部チーム

縫合を行うネパール支部チーム

くからその活動が軌道にのったことなどが挙げられる。

引き上げるにあたっては協議の結果、AMDAの活動サイトと医薬品は、Vijayanagar Institute of Medical Science(ヴィジャヤナガル医学研究所)に引き継がれ、第1次チームは任務完了、三宅は第2次チームへ合流した。

AMDAの活動－②救援物資の輸送

一方、1月29日救援物資を航空機で搬送することを 決定、発表。当日からTVニュースなどで寄付を呼びかけ、1月31日午後に締め切った。最終的な貨物量は医薬品約1.5t、毛布2,000枚以上、飲料水3t、シーツ・タオルおよそ1,500枚、テント500㎡以上、携行食糧150㎏、そして土木機械2台、総計30t程度となった。この救援機に第2次チームが同乗した。

AMMM第2次チーム(5名) [派遣期間：2月1日～2月12日]

救援機は2月1日18時36分、岡山空港を出発、翌2日17時にシベリア、中央アジア経由でアーメダバード空港に到着。物資の一部と重機2台についてはアーメダバード市にある緊急救援局との協働管理の下、緊急救援に供した。2月5日までに並行して行っていた予備調査の結果、モルビーMorbi市(アーメダバードより西南)の病院、ラムナガールRamnagar村(モルビー市の西方 人口5千人程度)、ジャムナガール市 などで配布を実施。モルビー市およびその周辺村落では国際援助団体が未だ活動していない模様で、困窮の度合いが大きい。ラムナガール村は建造物の損傷がはげしく、住民はテント暮らしを余儀なくされている。

2月11日20時40分、第2次チームの小平主任調整員、藤田通訳・調整員、原口看護婦、大野技術担当はNH956にてムンバイを出発、12日に帰国した。H. S. Sharma医師は、24日までジャムナガール市にて災害状況をフォローアップし、2月25日帰国。

AMDAでは、引き続きAMDA・インド支部を中心としたフォローアップと、今後の復興における協力態勢を検討している。

ラムナガール村にて救援物資を配布する第2次チーム

インド　グジャラート州大地震における AMDA多国籍医師団の活動について

医師　三宅　和久

1月29日14：30、ブジ空港着。しかし、ここは軍用空港でターミナルなどは無く、荷物を待つこと1時間半、ようやくブジ市内へ入れたのは夕方になってからだった。完全に破壊されて瓦礫の山と化した総合病院跡に荷物を置き、整形外科のバスデブは他のチームの場所と道具を借りて4人の患者を治療。他のメンバーはブジ市内の状況を見て回った。ここブジ市は地震後3日の時点で電気は無く、店は全く開いておらず、水も給水車により給水されている状態で、荷物の制限の為ペットボトルすら持っていなかった我々は、砂漠気候の乾燥したこの地で、ほぼ6時間にわたって水を飲む事ができず、渇きに苦しめられた。(私は他のインドのメンバーが止めるのも聞かず、地元の人が飲んでいる水を同じように飲んだのだが、私以外は誰も飲もうとしなかった。少し変な味の水だったが、結局何事も無かった。あるインド人医師から私の前世はインド人だったのだと言われたことがあるが…。)全てのメンバーが水と食料の供給を受けられたのは20：30になってからである。その夜は余震を避ける為、吹きさらしの広場で星を見ながら寝たが、昼間の25度から一転5度くらいに冷え込んだ中でインドの薄い毛布は防寒効果が薄く、寒さでほとんど眠れない中、朝を迎えた。

1月30日（火）9：15、後発の5人と合流。ボランティアの車でブジ市の東45キロにあるアンジャール市へ向かう。12：10アンジャール市着。野外病院として張られたテントの一角にAMDAも診療所を開設し、早速治療を開始した。

この日は地震発生後4日目になるが、大抵の緊急救援では、日数が経つほど患者は外科系から内科、小児科、心療内科系へと移って来るものである。しかし、今回はこの日を含めて5日間、ほぼ全て外科と整形外科の患者であった。止血のみで初期治療が受けられず、我々の診療所で初めてきちんとした治療を受ける患者ばかりだった。インドの医療チームも相当数入っていたのだが、患者の数が多すぎる為、初期段階では治療の手が届かなかった人たちがかなりいたと考えられる。なお、この野外病院では外国からの医療チームは我々以外見かけなかった。外傷患者の多くは、前頭部から頭頂部にかけて挫創を受けており、地震発生時、瓦礫の頭部への落下によると推察された。中には頭蓋骨が剥き出しになっている患者もあり、デブリッドメント（一旦傷の周囲を切り取って、傷を新鮮な状態にした後、縫うやり方。この方が傷の癒合が早い。）を中心に、我々はひたすら外科処置を続けた。この日は31人を治療。陸軍が張ったテントで寝ることができたが、やはり寒く、熟睡は難しかった。

ここでは電気は発電機によるもののみだったが、食料と飲み水は十分に供給されていた。ただ、問題はトイレだった。簡易トイレすら無い。女性は小便すらできないのである。男性も大便の時は夜中に起き出して、その辺の空き地でするのであるが、朝になると診療用のテントの横ですら小便と大便の跡が至る所に残っており、蠅が寄って来て不潔になるので困った。また、もともと埃っぽい上に、瓦礫により更に埃が増しており、外科処置の際傷口が不潔になるのが心配だった。飲み水はあるものの、生活用水はほとんど無いので、顔を洗うのは手の平1杯の水だけにした。歯を磨く水は手の平2杯分である。

結局第1次チームは1月29日から2月3日まで計320人を治療し、診療所と医薬品をインドの医療チームに引き継いで撤収した。私はAMDA本部からの指示で2月1日（木）アンジャール市から東へ300キロ離れたアーメダバード市へバスで移動。2日夕刻日本から輸送機で来た第2次チームと合流し、更に一週間救援活動を続けた。

皆様お世話になりました！

空港ボランティア作業受付担当　龍門玲子

地元新聞の特集記事に航空機救援活動は「かけ」と載ったが、それは象徴的なくらいに緊張と激動と感動の3日間だった。1月31日、救援物資がどれくらい集まるのだろうという思いで空港にかけつけた。実質2日間での収集、梱包、積込作業であった。

急なお願いにもかかわらず、気持ち良く参加して下さった作業ボランティアの方、あるいは遠く県北から空港まで毛布を車で届けて下さった方、岡山市や各団体からの物資提供。ほんとうに多くの方の善意をいただいての活動となった。新聞やテレビを見てと本部に電話を下さった方の中には、「毛布を寄付したいが、どうしたら良いか」と問われ「空港で受付ます」と応えると、高齢で車もないのでとあきらめられた方も何人かおられた。また、物資受付場所の空港では仕事の都合をつけて作業の手伝いに来て下さった数人にも出会え、力強い作業となった。

阪神大震災の時にお世話になったボランティアの方々の参加も心強かった（参加ボランティア人数、2日間で延べ55名）

まさに、ボランティアはAMDAの財産であり、「困った時はお互い様」という理念を目のあたりにした思いである。

物資梱包 → 積み込み

AMDA緊急救援サポーター募集

AMDAの震緊急救援活動に多大なるご支援を下さり有難うございました。

仮設テントでの外科を中心とした診療活動

救援の届かなかったラムナガール村で物資配布

救援物資搬送は、みなさまからのご寄付や物資積込み作業へのご協力がなくてはとうてい実施することはできませんでした。今回、物資搬送の決定から約3日で、約30トンの物資を搬送できましたのも、小雪がちらつく寒い日にもかかわらず万障繰り合わせて大勢のボランティアのみなさんに駆け付けていただいた賜物と感謝しております。

そこでAMDAでは緊急活動支援としてのご寄付、物資積込み作業を応援していただける方をAMDA緊急救援サポーターとして登録させていただき、今後の活動へのご協力を呼び掛けてまいりたいと考えています。どうぞご登録をお願いいたします。また、お知り合いのみなさまもご紹介ください。

＊登録方法

住所・氏名・職業・電話・FAX・メールアドレス等を
AMDA事務局までお知らせ下さい。

〒701-1202　岡山市楢津310-1
電話　086-284-7730　FAX 086-284-8959

※書き損じハガキ・未使用の切手などを集めています。
これらで得られた収益は、通信費として使用させていただきます。

みなさんのちからを必要とする人たちがいます

■AMDA募金箱を置いていただける方
ご連絡ください
TEL 086-284-7730

■クレジットカード
（全日信販のAMDAカード）
ご利用額の一部がAMDAに寄付されます。また会費納入方法もあります。
AMDAカードについてのお問い合せは、
全日信販株式会社　本社営業部
TEL 086-227-7161 です。

AMDAでは被災者への緊急救援を行うため、
皆様のご支援をお願いしています。
郵便振替　口座番号　01250-2-40709
口座名　AMDA
＊通信欄に「エルサルバドル」、「インド」あるいは「緊急救援」とお書きください。